

社会で活躍する卒業生

A graduate of Shimane University

No. 15

蔵人

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は台雲酒造合同会社の代表を務める陳さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

大学で出会った日本酒
その素晴らしさに魅せられ
酒造りの世界へ

2021年4月、日本酒の輸出拡大を目的に、輸出に限って日本酒製造を認める「輸出用清酒製造免許」が新たに設けられました。同年7月に台雲市で創業した台雲酒造合同会社は、11月、全国では5例目、中国地方では初めてこの免許を取得しました。同社の代表を務めるのが、台湾出身の陳さんです。「以前から全国の蔵を間借りして日本酒を製造し、製造元の商品として海外に向けて輸出・販売していました。この免許の存在を知って、独立して海外向けの酒造りに取り組もうと決意し、免許の取得を目指そうと思いました」。台湾と島根を繋ぐ蔵という想いをこめて、台湾と出雲から1文字ずつとった「台雲」としました。

陳さんの経歴は実に多彩です。母国の大学でデザインを専攻し、卒業後はデザイン関係の会社で働いていましたが、かねてから日本の文化に興味があり、2008年に島根大学へ留学しました。留学当初、実は日本酒はあまり美味

先生方とは今でも交流があり、酒好きな先生は見学に来られることもあるそうです。

今後は、出雲空港のすぐ近くという会社の立地を活かして、外国人観光客を対象にした酒造り体験など、インバウンドにも力を入れていきたいと言います。将来的には台湾だけではなく欧米への輸出も視野に入れており、イギリスやフランスなど海外のコンテストに積極的に出品し、様々な賞を受賞しています。「国によって評価がまったく違うんです。それは好みの違いからきているのだと思います。コンテストに参加することで、各国の嗜好を探っているところで、台湾のみならず、島根と世界の懸け橋を目指して、台雲酒造の今後の動向から目が離せません。



Profile
陳 韋仁 さん
台雲酒造合同会社 代表

台湾台南市出身。2012年3月に島根大学法文学部言語文化学科を卒業。日本全国の蔵元で経験を積みながら、「台中六十五」の銘柄で日本酒を製造。2021年11月に輸出用清酒製造免許を取得し、出雲市斐川町で台雲酒造合同会社を創業する。



台中65号を栽培している松江市の水田にて。水田探しから栽培まで、専門家や農家など様々な人に助けられながら収穫を迎えました。

しいという印象を持っていなかったと、陳さんは振り返ります。そんな陳さんが日本酒の世界にのめり込んでいくきっかけになったのは、部活動でした。「島根大学では美術部と剣道部に所属していました。美術部で、たまにみんなでお酒を飲むことがあって、部員の人々がたまたま地酒を持ってきてくれたんです。それを飲んだ時の衝撃がすごくて。今まで自分が知っていた日本酒とはまったく別物で、そこから日本酒に興味が高まりました」。美術部では毎年、中四国の大学が集まる展覧会が開催されており、その時に山口

日本と台湾、世界を繋ぐ 懸け橋になるべく 研鑽を積む日々を送る

県の日本酒「獺祭」を初めて知りました。「どうやって作っているんだらう」という興味が湧いて、獺祭の製造元である旭酒造に直接手紙を書いて、3年生の時にインターシップにも行きました」。そのような経験もあり、卒業後、旭酒造に就職することになりました。その後一度東京で出版関連の仕事に戻ったものの、やはり酒造りの楽しさが忘れられず、松江市の李白酒造に就職し、再度酒造りに没頭します。

酒造りを続ける中で、次に芽生えたのが「自分の酒」を造りたいという想いでした。その野望が芽生えてから、まず考えたのがどの米で作るかということでした。台湾出身の陳さんは、台湾と日本両方に関わるものがないかと探したところ、戦前の台湾で広く栽培されていた「蓬莱米(台中65号)」にたどり着きます。沖縄でモミを分けてもらい、当時の同僚だった杜氏から田んぼを借り、米作りをはじめましたが、米作りはまったくの素人。周囲から多くの助けを受け

ながら、栽培にあたったと言います。2017年からは、全国各地の蔵を間借りして自分の酒造りを行い、「台中六十五」の銘柄で台湾への輸出を行っていました。「酒造りはとても繊細で、同じ原料・同じ工程で作ってもまったく違う酒ができるのが面白いところ。とにかく多様性があります。その年ごとに気候も違いますし、米の出来も違いますから。その個性を毎年楽しめるような酒を造りたいと思っています」。



台中65号を使った「台中六十五」(右)と、台中作りの経験をもとで作った日本米を使用した「台雲シリーズ」(左6つ)。
※日本国内では販売していません。



灌入を行う陳さん。現在は蓬莱米「台中65号」を使った日本酒「台中六十五」シリーズと、日本産の酒米を使った「台雲」シリーズを軸にしている。

読者の声

広報しまだい vol.51に寄せられた声をお届けします。

今後も頑張る島大生に
フィーチャーした特集を
期待しています。

(島根県松江市・20代女性)

医学部附属病院での最先端機器の導入等の
記事を読み、心強い医療体制が確立され
心強く安心して暮らせます。

(島根県出雲市・60代女性)

脱炭素先行地域を
他県に先駆けて島根から
取り組んでほしいと思っています。

(島根県松江市・70代男性)

「将来に向けて島根大学が
どのようなビジョンを持っているのか」を
積極的に発信していただきたい。

(長野県松本市・70代男性)